



- 〇8月17日 日 知夫村立知夫中学校夏合宿（1-3年生）
- 〇8月19日 火 出雲市立斐川西中学校生徒会（三年生）
- 〇8月20日 水 島根大学附属中学校生徒会（三年生）
- 〇8月21日 木 松江市立第二中学校生徒会（三年生）
- 〇8月22日 金 浜田市立三隅中学校生徒会（三年生） それぞれ2時間半の講座で実施

今年度、中学校は5校実施できました。夏休みを使っての実施、貴重な「あそびの時間」を割いての活動です。盆明けすぐの日曜日、講師北さんも朝早く東京をたち、そのまま境港から知夫村に向かうというハードスケジュール。しかもついて1時間もない6時半からの夜の講座、全校生徒11人での夏合宿初日です。教育委員会・学校あげての対応に心が熱くなる幕開けでした。

知夫村は先生と生徒がまざりあつての講座、他は生徒会役員の講座です。全員がわいわいと集まったときから話をしているところ、男子と女子と立ち位置も離れているところ、なんとなくグループが見え隠れするところ、同じ中学生でもそれぞれ雰囲気まるで違います。

「人権」なんて難しい講座に「生徒会だから」と嫌々でたと顔にかいある子どももいたと思います。反対に準備から私たちを手伝い、早速関わることを体感している生徒もいます。

そんな子どもたちのようすをみながら北さんの「アフタフ・バーバン」の名前の由来から話しははじまり、いよいよワークにはいりました。

◎一番最初は片手を前でグー、もう片方は胸でパーのワークから。そして1.2.3と指をかえて同じようにしていくワークになります。簡単そうですがやってみるとなかなか出来ませんが、緊張していた生徒から笑い声が出てきます。速度が速くなるとついていけない人もいます。

できるかできないかではなくて、「早くできるか、人よりゆっくりできる」の差。できなかつたら、できないぜとわらっていればよいよ、という言葉に「えっ!」という思いがけないことを言われた感じと「あーっ!そうなんだー」となんだかほっとし笑いが更に広がります。北さんが講師を務める大学で学生が「できない」といった話、「できるできないでしかこれまで判断されていなかったのではないですか」という言葉に、生徒の瞳が大事なものをもらったような顔に変わっていきます。この北さんというオジサン、なんだか違うぞ……。冷やかに見て

いた生徒の目が変わり始めます。イスにもたれていた姿から前のめりに見つめる姿が出てきます。

◎ラッキーセブン

両手じゃんけんからラッキーセブンというあそびに。3人4人というグループでだした数が7になるか！という奇跡？を楽しむあそび。お前1だせ 2だせと決まったことではなく偶然を楽しみ、そんなかわりを楽しむワークです。偶然一回で7になったチームのやったーという顔、顔。どんどん顔がイキイキとしてきます。

◎ドンガラドン ◎ふたりでババ抜き

トンガラドン3人組2人組のワーク。ほぐしと一緒に「関わる」ことをまず体感します。ここでも大学生がトンガラドンを順番に・・・といった話がでました。体感してから聞くとその違和感がよくわかります。どこが違和感？なぜ違和感？自分が感じたことと、マニュアルがあふれている中で育つ現実の中の問題に気付きます。そして関わるってどういうことということが次第に心に落ちていきます、笑い声と正比例して。

ババ抜きは2人組になり協力してチームでババ抜きをします。かわり合う楽しさを身体中で体感します。



◎椅子とり

椅子取りは、学びの大きいワークショップです。今回もここが前半の大きな学びの場になりました。

バラバラに座った生徒+北さんの椅子。北さんが「オニ」になり、その空いた椅子に座ろうとします。生徒たちはその空いた椅子に誰かがすわり北さんが座るのを阻止します。北さんは次の空いたところを探し座ろうとし、生徒たちはどうにかしてそれを1分すわらせないようにしなくてはなりません。

よーい、はじめ！ 生徒のあーっと言う声とともに北さんはあっという間に座ります。わずか7秒、そして14秒、17秒。なかなか1分はできません。

そしてここでシンキングタイム。北さんは部屋から出、生徒たちで方法を考えます。「そこんとこの4-5人でおんなじとこをくるくるしたらとられないんじゃない？」という意見が不思議なことにどこの会場でもまし



た。異論はです、これをやってみます。30人近くいるのにたった3-5人しか動きません。見ている人は傍観者然としているだけです。でもイスはすぐとられしかも北さんはひっくり返りかけます。見ている生徒は笑います。「僕はとても嫌な気持ちでした。しかも他のひとたちはただみているだけ笑ってるだけで動こうとしなかった。これはいじめと姿と一緒にではないか・・・」という北さんの投げかけに生徒たちの心は揺れて大きく変化していきます。

そして、再びのシンキングタイム。ここでも会場でようすが様々。すぐに話し合うところもありますが、全く今回は話

し合いもないところもあります。おいおい、大丈夫？ 見ている私たちスタッフはやきもきしますが、なんにも敢えて声はかけず、待ちます。待つということも育ちの重要なことだと・・・。この後の椅子取りは変わります。最初はやはりぎこちないのですが、どこの会場も全員が他者の動きに気を配り、自分が動きだします。そして何回かトライし、1分をどこも見事クリアしました。全員大拍手です。子どもたちの何かが確実に変化する時間でした。子どもは学び生かされていく・・・見守るおとなも学びの大きいワークです。このワークを境に北さんへのまなざしが確実に変化します。

ワークショップは新聞キャッチにすすみます。以前小学生が「こいつ、ヘタだからチームをかえて」といった例をとりあげ話します。心が揺れます。そんなこといわれたら自分はどんな気持ちがするか、わかるよ、私も苦手だもん。いや、自分も心の中でそんなこと思ってたよ……。そして相談、こうしたらうまくとれるよ、ここへ投げて…等、話し合いの大切さ、相手にゆだねるキモチ、どうしたら相手も自分も心地よくワークができるか……。小さかった生徒たちの声もずいぶん大声になってきました。ちゃんと自分の言葉で伝えている姿がそれも笑顔で伝えている姿が見られます。キャッチは最高の55回という新記録も生まれました。でも多いだけがすごいのではないのです。3回、5回、8回でもうまくキャッチできたときの、お互いの心地よさと感覚、笑顔……。それがすごいんだよと知らず知らず心が理解します。

◎要求と権利

後半は、「権利」についていよいよ学びが始まります。

最初は要求と権利。

自分がいま欲しいものを8個紙にかきあげ、となりの人とバストスリーを発表。なぜそれが必要かもみんなの前で話します。「お金」「時間」がたくさんです。「一人の部屋」「学力」「トランプット」「部活で一位」「どらえもんまるごと」etc……。それぞれに理由があります。北さんが昔やった中学生のワークの事例をあげ「要求」を「権利」にしていくには、「3つのフィルター」が不可欠だと伝えます。リアルな話に「権利」が身近に感じます。「お互いが安心できる、他者が納得する、道理・筋が通っている」この3つをクリアしていかないかぎり、「権利」は遠ざかる……。 「3つのフィルター」は「今日心に残ったことば」のなかで常に生徒からあげられました。



そしてそのことを体感する「人間ファックス」のワークにいどみます。

相手に安心して書いてもらうには……。 「絵を描く」という単純なワークですがそこにある深い意味を肌で感じています。そして「伝える」という人と関わる体感をここでもたっぷりとします。言葉だけで1枚の絵を伝えることのむずかしいことですが、最初に比べると伝える側も各側も表情がイキイキとしていて、パートナーへの質問も活発で、またそれがたとえうまく伝わらなくても笑いあって「これ

でもOK」表情になっています。

時間はすでに2時間、でも生徒たちの顔はとても輝いています。

北さんの講義は思わぬ言葉が飛び出します。

みんな違ってみんないい……。 だけど大変だあー。

生徒の中に「そうだ！ そうだ！」という顔が広がります。人とつきあうって、関わり合うって……。 そうなんです。 みんなたいへんだと思っていたのです。

みんないいんだ、 だけどだけど……。 ひとりひとりの要求、権利……。 折り合って大変だよね……。

親しいから、近い立ち位置にいるから同じだとおもっていたのに、ちょっとした違いや気持ちのすれ違いに「あれっ？」と思ったりイライラする……。 近い人こそ対立が起こるよね……。 北さんの言葉に共感の顔が広がります。

そしていよいよ、子どもの権利条約のカードがでます。

◎子どもの権利条約

世界各国からあげられた膨大な意見から40条という究極の条約ができるのに10年という年月と人の手がかかったという事実に皆が驚いていました。その40条をカードにしたものをまず、どんな条約か皆でみていきます。初めて「子どもの権利条約」を見るという生徒も少なくありません。この40条の中で今、自分たちに必要であるもの、大切なものを3つ、3位・2位・1位と選びます。それも4-5人で意見をいいつつ、選びます。6条、3条、12条、13条、31条、28条・・・生きる権利、意見表明の権利、遊び・余暇の権利、教育の権利、差別されない権利・・・など次々に上がりました。



人は関わりの中で権利を学ぶこと、そして遊びのなかにはその関わりがいっぱいあること、問題解決に向かう基準、それが権利だということ、他者も自分も納得できるよう伝えることの大切さ、など最後に北さんから再びまとめのメッセージを心いっばいに受け止めます。

○生徒たちへのアンケートより

「講座で一番印象にのこったことば」

- ・みんなちがっておもしろい（たくさん回答あり）
- ・子どもの権利条約—みんな違ってたいへんだあ—でもおもしろい（非常にたくさん回答あり）
- ・近い人ほど対立が起こりイライラする（たくさん回答あり）
- ・できる、できないではなく、早くできるか遅くできるかである。（たくさん回答あり）
- ・違いを面白いと思う
- ・あそびは大事
- ・要求と権利
- ・同化を求めない（複数回答あり）
- ・生きる権利（複数回答あり）
- ・権利、差別
- ・権利（複数回答あり）
- ・あそびの中に権利にかかわることがたくさんある
- ・権利は誰でも持っている
- ・権利は大切なもの
- ・3つのフィルター（複数回答あり）
- ・アフタフバーバン「とびらよ ひらけ」（複数回答あり）
- ・権利の3条

<感想より>

- ・子どもの権利条約というのを今回初めて知りました。私たちが読んでも分かりやすい内容でした。これがどんどんひろがっていけばよいです。今回の研修をいかしていきたいです。（女子）
- ・私はいま悩んでいることがあり本当に辛い状況でした。しかし、親やおとなのかかわり方をきくことができ本当に良かったです。（女子）
- ・要求と権利の違いや、人との違いがおもしろがることの大切さがよく分かりました。身近な人ほど違いをおもしろがれないことが、いじめにつながるということについて「なるほどな」と思いました。あまり内容

を知らなかった子どもの権利条約ですが、こんなにも子どものことについて考えられていて、もっと知りたいなと思いました。すごくいい経験になりました。(女子)

- こんなゲームから学ぶことがあるとは思いませんでした。(男子)
- あそびを通して、人と関わる権利を学びました。子どもの権利条約について、今後も考え、身近なところから周りに発信していけるといいなと思います。(男子)
- いままで人権、人権と言ってるけど、ほとんどそれは差別をするなということかと思ってたけど、いろんな権利があって、それを知ることができてよかったと思います。要求をおしつけないようにしたいです。(女子)
- あそびから子どもの権利を考えるのはどうするんだろうと不思議に思っていたんですが、今日の二時間半、本当に分かりやすくまた面白かったです。自分にできることで、これをひとりでも多くの人に伝えていけるといいなあと思います。(女子)
- 僕たちはこれから体育祭や音楽会などの行事がありますが、意見が違ったりするときは、自分たちの権利はなんなのか、よく考えて解決したいです。(男子)
- 私はできるとできないの話が一番心に残りました。むこれからひっぱってまとめていく中で、できない人がいると「なんでできないの」と思うことがあると思うけど、そう思わず「練習すればぜったいできる」と思っていたいです。そして違いを自覚している生活していきたいです。(女子)
- 楽しく人権のことが学びました。遊びにも権利が関係しているのも深く知り、最近問題になっているいじめの解決方法が今回の公衆でみえてきました。(男子)
- 人権についてたくさんを知ることができました。周りの人たちの意思を尊重して最良の行動をとることが大切だと思いました。(男子)
- 遊びながら、小さなことにも常に権利があるということの説明を聞いてすぐ納得することができました。子どもの権利を知って、生徒会やクラス、家族で意識していくべきだと感じました。(女子)
- 人それぞれ違うということを理解してこれからの生活に生かしたいです。(女子)
- たくさんあそびを通して権利を学ぶことができました。「できない」ではなく、早くできる人、遅くできる人、遅く遅くできる人、と見方を変えることができれば、けんかやもめごとがなくなるのが分かりました。これから今日学んだ考え方を生かしたいです。(女子)
- すごくいろんなことを考えさせられる体験でした。(女子)
- 最初のゲームで心と体を使い、人と協力しあってできたんで良かったです。自分の権利への思い、考え方が少し変わりました。いままで少し軽く考えていたことだったけど、今日はすごく重く感じました。自分たち子どもにもいろいろな権利があるので、今後生かしていければと思います。(男子)
- 子どもの人権ワークときいて、かたくなるしいと思ってたけれど、遊びから始まって、その遊びのなかに権利があるときいて、そうだなあと思いました。子どもの権利条約は初めてみて、すごくためになりました。(女子)

